

大阪府保育士会だより



# ほほえみ

平成28年9月1日 第106号

大阪府社会福祉協議会  
保育部会・保育士会

大阪市中央区中寺1-1-54  
TEL 06-6762-9001



故 武内茂子先生を偲んで

## 「生涯現役保育士」 最後まで保育の現場に立ち続ける

大阪府保育士会会長 高田テルミ



去る7月4日、私たちの大先輩、大阪府保育士会名誉会長の武内茂子先生（旭ヶ丘学園理事長）がご逝去されました。  
昭和60年から11期22年間、大阪府保育士会の会長として、また平成13年からは全国保育士会の会長も2期お務めになり、この間私たち保育士の地位確立のために「保母」から「保育士」への名称独占と国家資格化の獲

得にご尽力されました。その時の大きなイベントとして、なみはやドームでの会員施設の子どもたちと職員を対象とした「2千人の集い」は忘れることはできません。

いつもお元気で、自らを「生涯現役・一生保育士！」と言われ、理事長になられてからもずっと子どもたちをそばにいて、職員の指導にあたられていました。本当に保育一筋の方でいらっ

折にふれ、ご主人のことやご子息やご家族のことを愛おしそうに語られる奥様・お母様のお顔も垣間見せていただきました。

40年近くお付き合いをさせていただいた私ですが、いつも、偉ぶることなく優しく教えてくださいました。いま、この偉大な先輩を失ったことは誠に淋しく、まだまだご指導いただきました。どうか子どもたち、そして保育士会のことを見守っていてください。

心よりの感謝の気持ちとともに、謹んでご冥福をお祈りいたします。

28年度 近ブロ集会大阪府大会

## 食を通じた園児・保育士・高齢者の異世代交流 「地域開放Day」で給食試食会はじめる

第5分科会 東大阪市・本庄保育園

平成28年度近畿ブロック保育研究集会（大阪府大会）が7月7、8の両日、シエラトン都ホテル大阪で開かれ「家庭や地域との連携による食育の推進」をテーマにした第5分科会で東大阪市の本庄保育園長の阪西裕子氏が「地域のお年寄りや食卓を囲んで楽しい給食と人との豊かな関わりを育む」と題して発表されました。

本庄保育園は、地域の高齢者と保育園児の交流体験が、人との関わりを自然に広げ、愛情や信頼感を育み、また、親しい人を増やすことが食生活の充実につながるという「食と人とのかわり」に着目されました。

まず、地域に住む高齢者を対象に、食生活のようすや乳幼児との関わりを知るためのアンケートを取り、その結果をもとに毎月のお誕生会（地域開放デー）を高齢者に開放し、気軽に参加して園児との交流を楽しむ



んでもらうことと、予約制の給食の試食会を実施されました。  
5歳児が月替わりで数名

ずつ高齢者と一緒に給食を食べるようですが、子どもは毎月大変楽しみにしているそうです。友だち同士や保育士と食べる日常の食事とは違い、おじいさん、おばあさんは上手に子どもたちの話を聞いてくださるので会話の内容に広がりが見られています。

助言者の名古屋短期大学・教授の小川雄二氏は、地域との共生はこれからとても大切なことで、最近子どもたちの声があるという話があるけれど、普段から園児と関わりをもていれば、知っている子どもたちの声は騒音ではなくなる、高齢者が元気になる地域力が高まる、と本庄保育園の今後の取り組みにエールを送られました。

（東大阪市 S・H）

48 子育て支援 シリ

# 親子ふれあい教室で 保護者自身が成長

## 育児放棄・虐待防止効果も期待

河内長野市 天宗清見台園

河内長野市南部の清見台住宅地内に所在する天宗清見台園は、創立28年目を迎えられた定員90名の保育園です。閑静な大規模住宅地ですが、住宅開発から30年以上が経過し少子高齢化が進む中、さまざまな地域の子どもや保護者への子育て支援事業の取り組みをされており、主として育児相談、園庭開放、親子ふれあい教室、地域交流事業があげられます。

親子を招いて交流を図っています。

親子ふれあい教室では、0歳からの未就園児と保護者を対象に、月2回土曜日に実施し、親子からの育児相談を個々に受けるとともに、参加した保護者全員がお互いに子育ての不安や悩みを忌憚なく打ち明ける対話の時間を設けています。子育ての身近なエピソードを題材に、保護者同士が親と子の関係や子育ての楽しさを話しあい、伝えあうことを通して、親として自分の成長を促していく学びの場になっていることがうかがえます。

さらに、親学習教材等を使用して勉強会を催しています。しつけ、虐待、食育等、親学

は、毎週土曜日の午前中、予約制で実施しています。地域交流事業としては、夏祭りや教育講演会等の園行事に地域の子育て



た。

保育士研修会が6月15日、国民會館で開かれ、「子どもっておもしろい。保育の基本をしっかりと身につけることだけでなく、保護者の育児のストレスや不安の解消、育児放棄や虐待などの危機的な状況をつくらないためにも効果があがっているということでした。

こうした子育て支援活動を地道に継続していくことが、地域のこどもの環境浄化につながっているのだと感慨深いものがありました。

(大阪狭山市 K・J)

# 育てているようで、育てられている 保育っていい仕事！ 保育士研修会で柴田愛子氏



「保育士の専門性を高める連続研修会が今年度もはじまり、第1回が、TKP大阪心斎橋カンファレンスセンターで行われました。テーマと講師、主な内容は次の通り。

## 専門性を高める連続研修会始まる

【第一部】 「保育の振り返りと園内研修のあり方」 講師／大阪総合保育大学児童保育学部学部長・教授・大方美香氏

「保育の振り返りと園内研修のあり方」 講師／大阪総合保育大学児童保育学部学部長・教授・大方美香氏

【第二部】 「配慮を必要とする保護者への支援」 講師／武庫川女子大学文学部心理・社会福祉学

「保育の振り返りと園内研修のあり方」 講師／大阪総合保育大学児童保育学部学部長・教授・大方美香氏

「配慮を必要とする保護者への支援」 講師／武庫川女子大学文学部心理・社会福祉学

科教授・倉石哲也氏 愛着は、生涯に亘る自分・他者・社会への信頼体系の形成に影響を与えるものです。また、母との間だけで成り立つものではなく、子どもの「養育者」は複数存在しうるもので、毎日8時間以上子どもを預かる保育者は、保護者と同じように愛着関係を築いていくことが極めて重要です。

(堺市 K・C)

「保育士研修会が6月15日、国民會館で開かれ、「子どもっておもしろい。保育の基本をしっかりと身につけることだけでなく、保護者の育児のストレスや不安の解消、育児放棄や虐待などの危機的な状況をつくらないためにも効果があがっているということでした。」

「育てているようで育てられている。子どもっておもしろい」そんな感性を大切にしてください。

(八尾市 S・K)

# 誰が食べても おいしい給食

## ～和食で予防アレルギー～ ②

栄養士 渡辺 雅美

Profile

栄養士として保育園に長年勤務、その経験をもとに1996年から保育園の給食に和食を導入する活動を開始。佐藤小児科医院長・小児科専門医の佐藤医師とともに、アトピー性皮膚炎の子どもへの食事の指導や、出前料理教室を主宰。乳幼児のアトピー性皮膚炎の改善のため定期的に講演活動を行う。

- 広島大学付属病院勤務
- 著書「アトピーっ子も安心の毎日ごはん」2011年8月出版 他多数
- 保育園での和食給食推進・指導・講演活動
- 大阪府堺市、佐藤小児科栄養相談。出張料理教室 乳幼児のアトピー性皮膚炎の改善
- NPO食の安全と安心を科学する会 理事



出張料理教室前  
(6月6日)



出張料理教室後  
(8月25日)

性皮膚炎の予防に「役買っているのだ」と思いました。

### 和食で丈夫な 体づくり

アトピーの食事療法といえば、除去食や回転食が主流ですが、食材の制限も多く、成長期の子どもは栄養不足が心配です。しかもご家族にとっては、別に食事を用意する必要があり、毎日の食事作りが負担になってしまいます。

しかし近年は、多国籍の料理を食べる機会が増え、腸内環境は悪化するばかりで、食物アレルギーやアトピーの子どもも増える傾向にあります。

トピー性皮膚炎の子どもに共通していた手足の冷たさの改善、職員の便秘、花粉症、喘息、貧血などの症状改善を多く体験してきました。改善の共通要因として腸内環境が整ったことがあげられます。

### 和食給食の効用

保育園の和食給食の利点は、毎日忙しいお母さんが作りにくいものを献立に取り入れられることです。それにより、「うんち嫌い！」と真っ赤な顔をして泣き叫びながらうんちをしていた子どもたちも、いつの間にかバナナうんちになりました。子どもの便秘解消、ア

### アトピー性皮膚炎の 女の子の事例

私はアトピー性皮膚炎の子どもさんとたくさん関わっていますが、ある1歳4ヶ月の女の子の事例を紹介したいと思います。

ステロイドと母乳を4カ月前にやめてもらい、食事

をしつかりとることを医師から指導されていました。しかし、4カ月たっても体重が増えず、浸出液も出て皮膚の状態も悪くなるばかりでした。親子ともひどい便秘でした。女の子の食事の内容を聞いてみると、パン、牛乳、バナナなど本人が好きなものばかりを与えて、米はほとんど口にしていませんでした。

そこで家に行かせてもらい、しっかりお母さんの話を聞き一緒に料理を作りました。五分づき米のおにぎり、だしをとった具だくさんの味噌汁、かぼちゃの煮つけ、焼き魚、じゃこ入りきゅうりの酢の物を出したところ、パクパク手づかみで食べて、おなかがいっぱいになると、にっこり笑いました。美味しかったんですね。お母さんも泣いて大喜びされました。それまで2時間毎に起きて皮膚をか

### アトピーの改善ポイント

- 1：和食中心
- 2：高野豆腐、粉豆腐の常食
- 3：ぬきごを常食に
- 4：美味しいものを作る
- 5：食事は楽しく
- 6：外で遊ぶ（散歩）

その点、食事を和食に切り替えるのはそう難しいことではありません。「しっかりとごはんを食べる」、「味噌汁は昆布と煮干しだしをとおり、具だくさんにする」、「魚や大豆、肉、野菜の和風おかずを1〜2品食べる」の3点を実行することです。おかずは、焼き魚、高野豆腐の含め煮、肉じゃが、おひたしや酢の物といった、ごく普通のおかず。これで栄養バランスが自然に整い、丈夫な体をつくるための、しっかりとした食生活の土台を築くことができます。

— 次回へつづく —

### 食事の多様化による影響

なぜ和食がいいのか、それは日本人の体にあっているからです。

私は栄養士を30年させてもらっていますが、30年前は現在よりアレルギーの問題は少なかったように思います。あっても卵くらいでした。味噌汁や煮魚の汁が口の周りについて赤くかゆがっている、温かいタオルで拭いてあげました。次の日も同じことを繰り返すうちに、赤くならず平気で食べたものでした。

地域とともに ふれあい大切に

ハッピーバルーン・フェスティバル  
心をひとつに、地域の絆深める

寝屋川市 かえで保育園

京阪萱島駅近く、寝屋川市の西南地域にある「かえで保育園」は、平成20年に民営化され、子どもたちが楽しく過ごせることを目標にしておられます。子ども主体性を大切にしながら自立を促し、生きる力を育てる」を基本方針に、担当制保育を導入されており、給食も和食を中心に調味料の塩、砂糖、油にもこだわり、子どもたちに優しい給食を提供されています。

社会福祉法人としての存在価値や意義が問われるなかで、保育園は西南地域の中で地域貢献をするきっかけとして、「ハッピーバルーン・フェスティバル」を平成23年度から法人内の保育園、老人ホームと一緒に開催されています。地域の中学校の校庭で、自治会、保育園、幼稚園、小学校、中学校に声を掛け、バルーンを空に飛ばすイベントです。空へ放つバルーンは、環境にやさしいもので、紫外線に溶けるバルーンを使われているそうです。フェスティバルを始めた当初は、



000個だったバルーンは、年を重ねるうちに今年は1500個ものバルーンになったそうです。願いごとを書き込み、想い込めて解き放つバルーン。地域のみなさんの心をひとつに、青空に向かってバルーンを飛ばす瞬間は、空に舞うバルーンにそれぞれの祈りを重ねあわせ、張り詰めた空気が漂い、静寂に包まれる

そうです。フェスティバルでは、地域にあるお店やアジアの多国籍料理のお店も出展され、美味しい食べ物も楽しむことができ、地域の方も大喜びだそうです。

また、「まちの先生」にも来ていただき、「伝承遊び」を教えてもらったり、園児たちの和太鼓を披露したり、地域との繋がりを確認し合い、笑顔あふれるこのフェスティバル。そんなフェスティバルを大切に、これからも地域に必要とされる法人であり続けたい…と津波古美奈子園長は話しておられました。

(寝屋川市 N・R)

保育の工夫―現場を訪ねて―

気分はまるで森の中

子どもたちの想像力豊かに

堺市 鳳西こども園

鳳西こども園は、昨年、園庭にランチルームを建てました。この部屋の中央には樹に見立てた太い柱があり、そこから木の葉が生い茂っているイメージで緑色の天蓋が広がっています。

その下には切り株のような椅子が並んでいます。そこで食べる給食はまるで森の中で食べているかのような雰囲気味わえます。

月に1回絵本を題材にしたおやつの日を設けていて、

森の中で絵本を読んでもらうと、子どもたちは絵本の中に自分がいるようで、どんな味がするのかな、美味しいのかな、どんな大きさなのかなと想像を膨らませてくれます。

ランチルーム前には、その日に食べた給食やおやつが絵本とともに飾られています。子どもたちはお迎えに来た保護者に「見て見て！ 今日はこのおやつ食

べたよ。この絵本呼んで」と親子の会話が弾みます。



子どもと話す時間が取れないと悩まれる保護者も多いですが、これが降園時に子どもの心にふれることができる楽しいコミュニケーションタイムとして喜ばれています。

先日は、参観で保護者にも子どもたちと同じようにランチルームで「はらぺこあおむし」の絵本を読んでもらい、絵本に出てくるカップケーキを試食してもらいました。

我が子がどんな体験をし、どんな気持ちでおやつを食べたのかを実感し、思いを共有してもらえたそうです。その他にも「ぐりとぐら」のパンケーキ、「ゴリラのパン屋さん」のきな粉揚げパン、「大阪うまいもん」の肉まん等、絵本の中のおやつ作りに挑戦しています。

子どもたちが絵本の楽しさを知り、想像をめぐらせイメージを豊かにし、実際の経験に結び付けてほしい…という保育園のメッセージが、しっかりと子どもたちにも保護者にも伝わっているようでした。

(堺市 T・H)

「今年の夏は暑い」と言われた通り、連日猛暑が続く暑さ対策に追われ、台風が多発し、ゲリラ豪雨に襲われ大変な思いをされたことと思います。

さて、リオオリンピックが開催され、日本が獲得したメダル数は41個と、史上最多を更新しました。私たちも子どもたちに勇気と感動を伝えられる保育者になれるよう質の高い保育を目指していきたいものです。

恒例の「保育士の専門性を高める連続研修会」には多くの方々にご参加いただきました。前半の2日間は、初めての会場ということで迷われた方もいらっしゃいましたが、熱心に受講されている姿に保育への熱い思いが伝わってくる研修会でした。

今後さまざまな課題を取りあげ研修会を行っていきたいと思います。

いよいよ行事が盛りだくさんの秋がやってきます。子どもたちと一緒に思いっきり楽しみましょう。

編集後記